令和２年度　学校評価 総括評価表

徳島県立徳島聴覚支援学校

徳島聴覚支援学校の経営方針

⑴ 徳島県教育の基本方針
とくしまの未来を切り拓く，夢あふれる「人財」の育成
「徳島ならでは」の教育により，大きな夢や高い目標をもって，困難にぶつかっても挑戦し続け，未来を切り拓いていく，本県の宝である「人財」の育成を目指します。

⑵ 徳島聴覚支援学校の使命
徳島聴覚支援学校は徳島視覚支援学校と同じ校舎内に独立して併置する全国でも類のない学校として，両校が「つながる」を合い言葉に連携・協働し「幼児・児童生徒の夢と希望につながる保育・教育」を行うとともに，県内唯一の聴覚障がい教育，視覚障がい教育を担う学校としての役割を果たし，「共生社会の形成につながる特別支援教育」を推進します。

⑶ 私たちが目指す学校
私たちは，聴覚障がいについて正しく理解し，子ども一人一人の個性を大切にして，日本語習得を基盤に据えた人間形成のための教育を進めます。

⑷ 本年度の具体的な目標

① 人権意識に基づく幼児・児童生徒指導の徹底を図ります。

② 幼稚部から高等部の縦のつながりを大切にした活動をとおして，他者とよりよくかかわる力を育てます。

③ 日本語で思考できる力を高めるために，教職員の指導力を向上させます。

④ 関係機関と連携をとりながら，聴覚障がいに対する専門的な支援を行い，聴覚障がいや本校の理解啓発に努めます。

⑤ 発達の段階に応じた勤労観を身に付けるため，日常生活や職業体験，進路指導等を充実させます。

⑥ 保育や授業等，寄宿舎生活をとおして得られた幼児・児童生徒の成長を保護者と共有し，連携を深めます。

⑦ 併置する徳島視覚支援学校や地域と連携し，防災避難施設としての役割を充実させます。

⑧ 会議や業務の効率化・精選により，授業準備の時間の確保と，教職員の時間外勤務の短縮に努めます。

⑨ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保育・授業改善を行います。

［令和２年度総括評価表　様式］　　（学校名：徳島聴覚支援学校）　別紙１

【幼稚部】

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
			活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価		
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保育・授業改善を行います。【⑨】	絵日記での対話を通して，幼児が主体的に話したり，新しいことばを覚えようとしたりする意欲を育てる。	活動計画 ①絵日記の時間に，幼児が自ら話したくなるための支援のあり方（言葉かけ，発問，教具，保護者への助言等）を検討する。 ②絵日記活動時の記録をとる。		（評定） （所見）		
		評価指標 ①ロールプレイを中心に絵日記指導に関する研修を年間１０回以上行う。 ②記録より，「自ら話す」「考えて答える」「新しいことばを提示する」の３項目について，１以上評価ポイントがあがる。				

【小学部】

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
			活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価		
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保育・授業改善を行います。【⑨】	自分の思いや考えを相手に分かりやすく表現し，進んで学ぼうとする児童を育てる。	活動計画 ①児童のきこえの状態に応じた情報保障の方法を工夫し，児童が考えて発表したり，話し合ったりする活動を増やした授業を実践研究する。 ②学年や個人に応じた話し方のポイントを教室に掲示し，児童の意識を促す。。 ③学習発表会を行い，他の学級の友達や教員，保護者の前で発表する機会を設ける。		（評定） （所見）		
		評価指標				

		①「発表や対話の場面を設けて活性化を図り，主体的・対話的に学ぶ授業改善ができた」と回答する教員の割合を 80 %以上にする。 ② 80 %以上の児童が，自分の考えを進んで発表する回数を増やすことができる。 ③学習発表会で，80 %以上の児童が聞き手を意識して話し方や内容を考え，発表できる。				

【中学部】

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保育・授業改善を行います。【⑨】	個々の学習課題を適切に捉え，主体的に学習に取り組めるような環境を整える。	活動計画 ①朝学習の時間を設定し，生徒が主体的に学習や課題に取り組める環境作りを行う。 ②生徒一人一人の特性に配慮した支援の在り方について検討し，学部全体で支援する。 評価指標 ①８：３０から朝の学活の間の１０分間を「朝学習の時間」に設定し，生徒の学力や課題にあわせた活動をさせることができる。 ②学部全体で，生徒の特性に配慮した支援ができるよう，学期に１回以上情報交換を行う。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 （評定） （所見）		

【高等部】

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保育・授業	希望する進路に沿った資格や検定・模擬試験等に主体的に挑戦し，目標が達成できるよう指導	活動計画 ①生徒個々の進路目標に沿った，資格や検定の情報等について，収集と生徒への提供を行う。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 （評定）		

改善を行います。【⑨】	する。	②合格等に向けた指導（補講等）や課題の提供を行う。 ③昨年度の自己記録を上回る級の検定や資格試験，模擬試験に挑戦するように勧める。 評価指標 ①生徒個々に適切な資格・検定等の情報を年間１回以上提供することができる。 ②検定等の合格に必要な課題を各検定前２か月の間，１週間に１回以上提出させることができる。		（所見）		

【渉外安全課】

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
			活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価		
併置する徳島視覚支援学校や地域と連携し，防災避難施設としての役割を充実させます。【⑦】	本校が防災避難施設としての役割を果たすために，災害避難時に備えて，校内に備えてある物品とその保管場所の周知を図る。	活動計画 ①両校教職員，幼児・児童生徒や地域の方が使いやすい防災学習室内の物品配置をする。 ②災害避難時に備えて，屋上出入り口周辺に備蓄物品・備蓄場所・備蓄場所までの経路を明記する。 ③①②の確認作業を地域の防災代表の方と一緒に行う。 評価指標 ①誰でもが使いやすいように室内配置できる。 ②屋上出入り口周辺に明記してあることや防災学習室内をホームページにアップできる。 ③両校渉外・安全課員と地域の代表の方との確認作業が１回できる。		（評定） （所見）		

【研究・情報課】

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
日本語で思考できる力を高めるために，教職員の指導力を向上させます。【③】	幼児児童生徒の置かれている状況を把握し，思考力を高める授業をするために必要なことを検討する。	活動計画 ①聞こえにくい状況で思考しながら話を聞くことの難しさを体験する。 ②体験したことを通して，幼児児童生徒が思考力を高める授業をするためには，どのようなことが必要かを考える。 ③アンケート結果をまとめ，教員間の共有を図る。 評価指標 ①難聴体験を一人２日程度実施し，難聴体験後のアンケートに，８０%以上の回答を得る。 ②体験後のアンケートで，８０%以上の教員から思考力を高める方法について回答を得る。 ③回覧やイントラ掲載を通して，９０%以上の教員がアンケート結果に目を通す。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 （評定） （所見）		

【生徒活動課】

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
幼稚部から高等部の縦のつながりを大切にした活動を通して，他者とよりよく関わる力を育てます。【②】	全校を通して幼児・児童生徒が縦の関わりを持ち，上級学部学年は下級学部及び下級生へのいたわりや優しさの心を持ち，下級生は上級生との関わりの中でよりよい他者との関わり方が身につくように全教職員が支援する。	活動計画 ①２学期以降に全校で合同給食タイムもしくは異学部間の交流給食タイムを実施する。 ②小学部６年生の部活体験を実施する。 評価指標 ①全校幼児・児童生徒が関わりのもてる給食タイムを年１回以上実施する。 ②実施後に児童生徒対象に事後アンケート	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 （評定） （所見）		

		を行う。幼児については担当学部教員または保護者に感想を聞く。結果については，各学部で共通理解し，次回への指標とする。 ③２学期後期に小学部６年生児童に卓球部・陸上部それぞれ一日以上の部活体験を実施し終了後にアンケートを行う。				

【人権・キャリア教育課】

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
発達の段階に応じた勤労観を身につけるため，日常生活や職業生活，進路指導等を充実させます。 【⑤】	①人権に関する研修会を通して，人権を尊重し，いじめを自分のこととしてとらえ，生活を改善していける，幼児・児童生徒を育てる。 ②幼児・児童生徒の発達段階をふまえたキャリア教育の推進をはかる。	活動計画 ①人権に関する生徒対象講演会・映画会等を開催する。（１２月） ②社会科見学・職場体験（見学）・就業体験などを実施し，職業観を育成する。（７月・１１月） 評価指標 ①人権に関する生徒対象講演会等を１回以上実施し，アンケートにおいて80%以上の満足度を得る。 ②生徒の実態に応じて社会科見学・職場体験（見学）・就業体験などを年間１回以上実施し，職業観を育成する。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 （評定） （所見）		

【サポート課】

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
関係機関と連携をとりながら，聴覚障がいに対する専門的な支援を行い，聴覚障がいや本校の理解啓発に努め	①本校の幼児児童生徒への情報保障の充実を図る。	活動計画 ①感染症対策のため、マスクの着用や距離をとっての学習を行う環境の中で，情報保障の充実を図る。 ①-1 行事で手話通訳だけでなく，文字情報支援を行う機会を増やす。 ①-2 補聴援助システムの整備を行う。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 （評定）		

ます。 【④】	②本校以外に在籍する幼児児童生徒に対して，在籍校や保護者と連携をとりながら、聴覚障がいに対する専門的な支援を行い、聴覚障がいや本校に対する理解啓発に努める。	①-3 職朝イントラや職員会議等で幼児児童生徒の情報保障についての理解啓発を行う。 ②感染症予防のため，例年実施している夏季補聴相談や本校を会場にしての難聴学級担担任者研修会（教育委員会主催）は実施できない。その中で次のことを行う。 ②-1 各家庭に郵送で個別の相談に対応できることを連絡し，相談支援を行う。 ②-2 難聴学級担任を対象にした研修会及び相談会を開催する。 評価指標 ①-1 始業式・終業式で手話通訳に加えて文字情報支援ができる。 ①-2 幼児児童生徒全員が補聴援助システムの活用ができるよう，個々の補聴器や教室の補聴援助システムの点検を毎学期行う。不具合がある場合にはすぐに対応する。 ①-3 月に２回以上，職朝イントラネットや職員会議等で情報提供を行う。 ②-1 来校や巡回相談の希望がある場合は日程を調整し，希望者全員に支援を行う。 ②-2 研修会及び相談会を，年間１回以上行う。		（所見）		

【寄宿舎】

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
寄宿舎生活を通して得られた生徒の成長を保護者と共有し，連携を深めます 【⑥】	①寄宿舎生活を通して，舎生の生活スキルの向上を図る。 ②保護者との情報共有を進め，連携を深める。	活動計画 ①健康で安全に生活する力の向上を目指した活動を推進する。 ②保護者に向けて，寄宿舎生活の情報発信を行い，連携を図る。 評価指標 ①舎生対象の感染症予防に関する講習を学期に１回以上行う。 ②寄宿舎だよりの発行やHPの更新を合わせて年１２回以上行う。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 （評定） （所見）		